

# 12月のイベント情報

今月開催の市内イベント情報をお知らせします

## 12/10 八千代の丘美術館冬まつり

八千代の丘美術館  
10時～17時  
八千代の丘美術館 ☎52-3050

第16期入館作家による作品展示替えイベント。ギャラリートークやミニコンサートなどもりだくさん。入館無料。



### ■ギャラリートーク

- ①10時30分～
- ②13時30分～

### ■ミニコンサート

- ①ピッコラ・マンドリーノ（ギター、マンドリン演奏）11時30分～
- ②筒井 尚美（バグパイプ演奏）14時～

### ■ワークショップ

- ①「切り絵でリースを作ろう」10時～11時30分 200円 20名
- ②「壁掛けクリスマスツリー」13時30分～15時30分 1500円 20名

③「スタンドアートで空間を飾ろう」終日無料  
※①と②の参加を希望される方は事前にお申し込みください。

## 12/17 警察・消防・市がコラボで開催「安全・安心フェスタ」

クリスタルアーゾ2階文化ホール・本庁前駐車場  
13時～16時（屋外は10時～）  
危機管理課 生活安全・消防防災係 ☎42-5625

防災アドバイザーの講演や県警音楽隊と保育園児とのコラボ演奏、吉田高校神楽部による神楽。屋外では災害応援車両の展示、ちびっこレスキュー・放水体験、自動ブレーキ等の体験。消防本部では119番をうける通信指令室の見学も。「産業フェア」と同時開催。



## 12/31 年越し神楽

清神社（吉田町吉田477）  
23時～1時30分ころ  
清神社 ☎42-0123

1998年から21年目となる毎年恒例の年越し神楽。「ゆく年くる年」でも放送された吉田神楽団による勇壮な舞とともに迎える新年をぜひ。



## 12/2 第23回 心耕祭

八千代文化施設フォルテ  
13時～15時40分  
八千代人権福祉センター ☎52-7500



募で集まった人権標語の授賞式のほか、沖田孝司さん・千春さんによるヴィオラ・ピアノ演奏や人権に関する講話、八千代町内の小中学生が日常で感じた想いを発表する『青少年の声を聴く会』などが行われます。八千代中学校では、イベント開催日を登校日に定め、毎年授業の一環として毎年全校生徒が参加しています。



人と人が手を取り合って生きていける町・八千代町を創るため、他人の考えに触れ、自分の心を振り返る機会として、毎年、人権週間に合わせて開催しているイベント。公

## 12/3 歴史民俗博物館公開講座 第6回「城の壊し方・壊れ方」

クリスタルアーゾ4階402  
①講座/11時～12時②郡山城見学会/13時～16時  
歴史民俗博物館 ☎42-0070

城郭石垣研究の第一人者である佐賀大学教授、宮武正登氏による郡山城の崩された石垣の講座と見学会。  
無料 11月12日～  
60名



## 12/17 安芸高田市学校保健会 研修会・講演会

向原生涯学習センターみらい 研修室  
105・106 10時～11時50分  
教育総務課 総務係 ☎42-0049



広島大学整形外科 准教授 田中 信弘氏

健康で豊かな人間性を持った子どもの育成をめざした年に一度の講演会。今年は整形外科医局長 田中 信弘氏をお迎えし「児童生徒の運動器の成長について～運動器検診の導入 今子どもたちのためにできること～」という演題で講演をしていただきます。不要



山田寺式軒丸瓦（明官地廃寺跡）  
※広島県教育委員会所蔵・当館展示

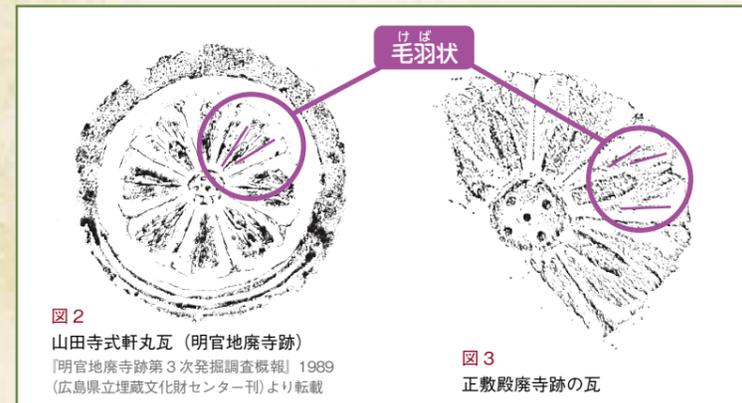
今回は前回に続き、飛鳥・奈良時代に建てられた県西部では最古級の古代寺院である、明官地廃寺跡の瓦について取り上げます。

# 安芸高田 歴史紀行



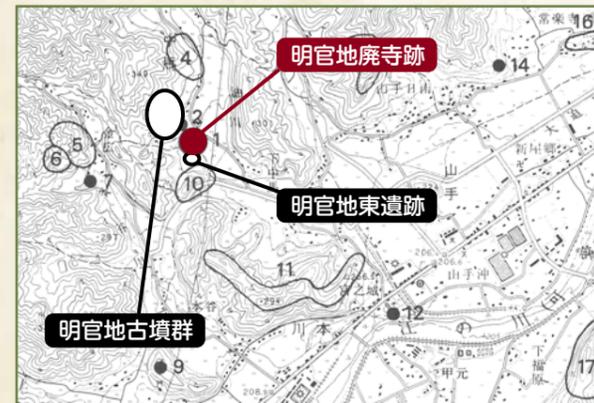
安芸高田市歴史民俗博物館 学芸員 和田 麻衣子

シリーズ「博物館コレクション」第3回  
古代瓦にみる 都のかほり 後編  
～みょうかんちはいじあと 明官地廃寺跡～



山田寺式軒丸瓦（明官地廃寺跡）  
「明官地廃寺跡第3次発掘調査概報」1989  
（広島県立埋蔵文化財センター刊）より転載

正敷殿廃寺跡の瓦



明官地廃寺跡位置図（「明官地廃寺跡第3次発掘調査概報」より転載・加筆）

寺院造営と瓦工房  
六世紀に仏教が伝来し、その後八・九世紀にかけて全国に多くの寺院が建立されました。  
安芸高田市では、明官地廃寺跡・正敷殿廃寺跡が知られ、いずれも山田寺式と呼ばれる瓦が使われています。近年の研究で、大和から地方に伝わった初期の瓦で、全国的にも珍しく、県内では4例しか存在しない貴重な遺物であることがわかりました。

明官地廃寺跡（吉田町中馬）  
7世紀後半の創建と考えられ、県西部では最古級の寺院です。また、山田寺式軒丸瓦（図1・2）を出土する寺院跡としては、県内分布域の西端部に位置しています。  
発掘調査では「高宮郡内部寺」と刻まれた平瓦が出土し、奈良時代には郷名を冠した「内部寺」と呼ばれていたこともわかりました。現在まで塔や金堂（または講堂とみられる建物跡の他、多くの瓦や鴟尾（屋根飾り）・奈良三彩（焼物の高級品）・須恵器の火舎（香炉の支脚）など寺院に関わる貴重な遺物が見つかっています。

山田寺式軒丸瓦  
八枚の花弁がある文様が特徴の大和から地方に最初に伝えられた瓦で、伝播後に図2のように花弁の内側に毛羽状の筋のような模様（火炎文）や子葉が加えられたりなど、幾つかの種類が存在します。  
瓦の押し型は木製の為、長く使用しているうちにひび割れ（范傷）が生じます。型は寺院造営の度に、瓦職人と共に移動するので、瓦の表面に残っている范傷の数を比べることでその瓦が作られた順番、つまり寺院造営の前後関係を知ることができます。これにより同じ型を使って作製したと思われる明官地廃寺跡と正敷殿廃寺跡（図3）では、明官地廃寺跡が先に造営されたことがわかりました。  
県内ではこの遺跡以外に、正敷殿廃寺跡（向原町長田）・横見廃寺跡（三原市本郷町）と最近発見された光見寺廃寺（広島市安佐南区）の4例のみです。明官地廃寺跡の南に隣接した明官地東遺跡では、郷衛の倉庫とみられる造跡がみつかっています。渡来系の人々と関係が深い横穴式石室を持つ明官地古墳群などが周囲に存在することからも、当時の中央政権や地方豪族との強い関連性もうかがえます。